

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2600500042		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	さざなみ京都南 (2階)		
所在地	京都市南区上鳥羽奈須野町23		
自己評価作成日	平成28年6月30日	評価結果市町村受理日	平成28年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiryosyoCd=2690500042-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	平成28年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設がオープンして3年5ヶ月になりました。施設理念①楽しく、自由にありのままに②家庭的な愛にあふれた暮らしを③残された力で暮らす喜び④地域との連携と交流を図る 事を今一度思い返し、利用者さんに寄り添い、ニーズに適したレクリエーションを充実し、楽しく自由に、ありのままに生活して頂くようにしていきたいです。出張パン屋さんが来て頂き、好きなパンやお菓子を選んで居室に戻られます又玄関に黒板を置き各ホールでタコ焼きやすき焼き、バイキング等趣向を凝らした食事を提供している事を地域の方にアピールして、気楽に遊びに来て頂けるような環境を作っていきたいです

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市南区上鳥羽の京都南インターにほど近い地に、大阪に拠点を持つ有限会社「さざなみ」が平成25年3月に、地域密着型事業所として「さざなみ京都南」を開設された。グループホーム3ユニットと小規模多機能事業所が併設されている。理念の4項目を実現すべく日々努力を重ねている。特に、この1年は運営推進会議に重点を置き、他事業所の情報や後見人による客観的な視野に立つての意見交換が活発に行われ充実した会議内容になってきていることが会議議事録によって伺い知ることができる。開設3年余を過ぎた今、地域との交流も深まってきており、管理者が町内会の役を持ち回覧板を活用して事業所の情報を発信できる道が広がってきた。近在の小学校で催された「七夕まつりコンクール」に参加したり、地区の夏祭りには「売り場コーナー」を持ち、地域住民と楽しみを共有している。中学生の職場研修の受け入れ、幼児との芋ほりなど地域との触れ合う機会が増えてきている。入居者と職員が仲良くおしゃべりに興じていたり、「ごはんたべなあかんえー」と入居者が入居者に声掛けして気配りする光景から、日々の職員の支援の在り方が憶測できる場面があった。時には、入居者の心が揺れ動き対応に困惑することもあるが、試行錯誤しながら入居者・職員の「思い」を大切に支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時、さざなみ京都南の理念を全員で唱和する事で、職員個々の意識を高め、日々ケアの実践に役立てています。	理念を4項目掲げ、さらに「報告・連絡・相談」の実践と「目配り・気配り・緊張」を忘れずに。などを朝礼で全員が唱和する事で気持ちを新たに一日の業務で実践するように努めている。入居者のその日の思いを大切に・退屈しないようにレクリエーションを充実するように心配りしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園や道路のごみ拾いを定期的に行ったり、地域の夏祭りにも積極的に参加しています。又地域に向けて、施設内のイベント開催を広報し、参加を募っています。	事業所の玄関前に、立て看板を活用して行事などを紹介して地域住民へ情報提供している。管理者が町内会の役員を受け持ち交流を深めるように努めている。今後は、回覧板を利用して事業所の情報伝達の手段とする事を検討している。地区の夏祭りには一つのコーナーを事業所として受け持っている。今年は、夏祭り委員会で「当てるもの」コーナーを企画している。近隣の中学生の「職場研修」も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間の行事を通じて地域の方々にも参加をして頂き、交流を持つ事により、認知症の方の理解や支援の方法を、直接見て理解を頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議を開催し、利用者さんの近況報告やレクリエーションの報告をしています。参加して頂いている他事業所さんの意見を参考にサービスの向上に活かしています。	会議は、併設の小規模多機能と合同で開催している。地域包括支援センター・地域のケアサポートセンター・後見人・入居者・利用者・家族と職員が参加している。事業所から、利用状況や行事・事故・ヒアリング・苦情など詳しく説明し、その上で参加者と活発な意見交換を行っている。他事業所から薬剤関係のミスについての対応や後見人から身体拘束についての意見などが出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域行事の会議等に参加させて頂いたり、認定更新調査にもご協力をお願い、サービスの取り組みに関して意見交換をしています	行政の担当課に運営推進会議の議事録を届けて事業所の状況を理解して貰い、情報提供も受けて双方向で連携が密になるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の禁止の対象となる行為を理解し、利用者が安心して、安全に過ごせるよう、拘束しない方法を日々検討して対応しています。	身体拘束に関する研修を全職員対象に定期的に行い、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。運営規程や契約書に身体拘束禁止の事項を明記して会社の方針を明確にしている。職員は、身体面・精神面においても入居者の言動を抑制するような対応に配慮しながら業務に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為の相手の立場に立ったケアの勉強会を開催し、日々、入浴時などでも、全身観察を意識して行う事で、外傷やアザなど変化の発見をいち早く行い、同時に原因の究明を行っています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や青年後見人の研修センターに管理者、職員は積極的に参加をし、職員会議で伝達をし、必要に応じて活用できるよう話し合っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、疑問に思われている事がないか話し合いを行い、契約や個人情報の内容を納得して頂き、署名押印をしていただいております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が日常的に要望や意見を発言出来るように信頼関係を築けるよう取り組んでいます。運営推進会議において意見を頂き、反映させています	日常的に、入居者との会話や行動・表情などから要望などをくみ取っている。家族などからは、来所時に話し合って希望・要望など聞き取るように努めている。運営推進会議時にも、意見交換する機会としている。洗濯後の衣服の整理時に取り違えがあり、家族などから指摘を受けミスのないように改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議で各スタッフの意見を拾い上げ 職員会議で報告、又その他随時意見や提案があれば各フロアのリーダーが報告出来ています	日常的に、業務の中での気付きを話し合ったり、フロア会議・職員会議で意見交換を行っている。申し送りノートの様式改善について話し合い、変更後の結果などについても意見を出し合っている。また、全職員が日常業務の中での気付きを「サンキュウカード」に記載して伝言板に掲示して共有し業務の改善につなげている。1か月で100のカードが掲示された月もあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフそれぞれの目標を設定し、向上心を持って就業できており、自己評価シートによる自己確認、及びフィードバックする事で適切な代表者の 評価が得られています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	京都福祉人材育成制度を活用して、1個々に応じた研修を受けています。内部研修でも移動、移乗等の実践研修をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区ネットの会議に参加し、同業者の近況状況等を持ち寄り、又利用者様の悩みを話し合い、サービスを提供できるようにしています		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な要素を取り除けるようしっかり傾聴し、その方のADL及び精神面を理解した上で安心して頂けるよう、"目線で寄り添ったケア、その方に合った 援助を提供しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その方を取り巻く生活歴や職歴、社会性、宗教性を全て伺うことで家族様の目線に立った関わりが持てるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談でアセスメントし、その方に必要とされるサービスの素質を見極める。 スタッフともミーティングを重ねる事で、更にその方に合ったものとしていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別性を重視し、ご本人の気持ちを汲み取る努力をおしめず、常に毎日の生活を共にするもの同志としての想いを大切にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一筆箋利用者様の近況をご家族にお伝えし、毎月のイベントの参加などを募り、一緒に過ごして頂ける時間づくりをする事で絆を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が会いたい方を知り、連絡を途絶えない関係作りをしたり、ご本人の希望に応じて、連絡したい時にはいつでも好きな時に電話をつなげる機会を持っています	最近では、親しかった友人や知人も高齢となり来所される機会が少なくなっているが、地域の夏祭りなどに参加して、馴染みの方と会う機会を大切にしている。外出や外食時には、馴染みの店を選ぶように配慮して楽しんでもらっている。小規模多機能の利用者との交流で新しい馴染みの関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の両行な関係性が保てるよう、常にスタッフが見守り、より楽しく、安心して毎日を過ごして頂けるよう、和気合い合いなレクレーションなどを行っています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、電話等で近況をお尋ねして、様子を伺っています。ご家族さんからの相談もお受けしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常より日ごろの想いを汲み取れる関係性を持ち得る事で、より楽しく、幸せな生活の実現に努め、常に本人本位を大切にしています	初回面接時に、本人・家族などから生活歴や心身状況・今後の暮らし方の希望など聞き取り記録している。入居後は、日常生活の中で会話や行動などを通して「その人の思い」を汲み取って記録している。	初回面談で、その人の情報を収集(アセスメント)されています。その後の日常生活の様子や情報も細かく記録に残されていますが、再アセスメントとしての情報が収集されていませんでした。新しい情報を追記しながらその情報を一か所に纏める(再アセスメント)ことにより「その人らしさ」が容易に理解出来るのではないのでしょうか?このことにより、全職員が情報を統一でき、新人職員の理解も容易に出来ると思われまます。ご検討を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴より、個性性を大切に、極力生活歴に沿った生活ができるよう、理解と努力をしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフで、日々の暮らしの記録から現在の状況を把握し、一人ひとりの有する力を最大限に発揮して頂けるような援助に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が毎日をより楽しく、幸せに暮らせるよう、現在のADL、認知症状や病気の把握を行い、ご本人や家族様の意見を取り入れ乍ら課題とケアの統一を図る為の介護計画を作成します	日々の介護支援記録から、介護サービスの状況や個々人の生活状況の課題を纏め、フロア会議でモニタリングを行っている。家族などや医療関係者からも意見を聞き取って参考にしている。その結果を介護計画作成者が介護計画を作成している。状況に変化があれば、関係者が話し合い計画の変更を行い、現状に即した介護計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきや工夫を個別記録に記入し、スタッフで情報を共有する事で、よりよい援助に繋げ、ケア会議にも持ち寄る事で適切な目標を立てています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の希望や要望を取り入れる努力をし、現在、出張パン屋さんの買い物ができる機会を設けておりますが、今後もその時々生まれるニーズに随時対応できるよう取り組んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の周りが田畑、公園があり、春はお花見や散歩もします。又九条ネギを農家から仕入れ、ネギ焼きパーティを開いて利用者さんに楽しんで頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院より、定期的にその方の往診があり、細やかで適切な医療が提供できています。又緊急時にも安心して相談可能な窓口として、臨時往診なども快く対応して頂いています	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの意向を大切にしている。現在の入居者は、協力医療機関を選択し、それぞれの主治医の往診により健康管理ができています。緊急時対応も主治医の指示により対応できる体制が整っている。訪問歯科医により口腔ケアができています。眼科・耳鼻咽喉科などの受診は、家族などや職員の付き添いで適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で、いつもと違うという気付きを大切に、そこから看護職との協働を行う事で、より安心、安全な生活ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時看護師や管理者が付き添い、病院相談員・担当看護師と連絡を取り合い、情報を交換しています。又病院に面会に行き、必要時は担当医とも会い今後についての話し合いを行います		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方向をご家族、主治医、看護師、事業者でカンファレンスを設け、同意を頂いたうえで、支援、ケアに取り組んでいます	重要事項説明書に「看取りについて」として事業所の考え方や方針を明記して、契約時に本人・家族などに説明している。その上で、本人・家族などの意思を文書で確認している。医療機関と家族などの協力を得て、可能な限り本人・家族などの意思に沿えるように努めている。過去に5名の方を看取った経験を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿った研修を随時行ったり、シミュレーションすることで、急変時や、事故発生時には、適切な対応が、迅速かつ丁寧に出来るよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携を取り、火災避難訓練を年に1回、車椅子移動等の実践を交えて訓練を行っています。施設独自の避難訓練も行っています	昼間・夜間を想定して年2回の火災避難訓練を行っている。その内の1回は消防署の職員の下に行き、1回は事業所独自で避難訓練を実施している。また、職員研修で「災害対策についての取り組み」として学ぶ機会を設けている。自然災害時には事業所を一時避難所として開放する考えを持っている。備蓄は、水・米・粥・缶詰・乾パンなど用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方を理解し相手の立場に立った丁寧な言葉で、優しく、謙虚で、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に充分気を付け、配慮に努めています	会社及び事業所の理念に「自由に」「楽しく」「ありのままに」と掲げているように、入居者一人ひとりの思いを大切に支援に取り組んでいる。年間研修でプライバシー・個人情報の保護についての研修に取り組み実践に繋げている。肖像権使用同意書を得てプライバシーの保護を確保している。言葉遣いなどにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちや考えを十分に理解した上で、自己決定できるように働きかけをし、日常生活の小さな事でも自分で選んで頂けるように声かけをし自己決定できる環境作りをしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の想いを汲み取り乍ら、その人らしい暮らしを実現できるよう、一日いちにちを大切に過ごして貰えるように心がけ支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問カットに来て頂き、髪を整えて頂いたり髭剃りをさせていただいています。着替えの服を選んだり、鏡を見る機会を作っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど、その方の想いを理解し、個人の出来る事、分かる事から、可能な限り、楽しんで頂けるような声かけをし、支援しています	朝食は職員が用意し、昼食と夕食は外部委託給食会社からチルドの形で納入してもらっている。入居者には、テーブルのセッティングや後片付けなど出来ることを職員と一緒にして貰っている。時には、昼食を職員が用意する日を設ける試みを始めている。個人の好みを聞き取り行事食に取り入れ、特産品である九条ネギを使って「ネギ焼きパーティー」や「たこ焼き」を楽しんだりもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、摂取状況に変化があった場合は、形態や提供方法を考慮して、医師や看護師にアドバイスを頂いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科カンファレンスや、衛生士さんや歯科医師の個人向けの訪問援助や治療により、又適切なアドバイスを頂く事でその人に合ったケアの援助ができています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLを把握し、日々変化する状況からも、適宜カンファレンスを開催し、ADLのアップにも繋がるケアや援助を実施することにより、排泄の自立支援にも努めています	生活記録表の排泄記録に基づき、適宜声掛けや誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。また、日常生活動作の向上に努めることで、排泄の自立に役立つようにと考えて実践している。夜間の安全を考慮してポータブルトイレを居室に置いている入居者もあるが、現在は殆ど利用しなくても良くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動やボール遊び等身体を動かして頂き、便秘の方には、水分を多く摂って頂くように進めたり、ヨーグルトやバナナを朝食に付けて予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	リラックスして入浴して頂けるよう、ご本人の希望に合わせて、個別ケアとして実施できるよう援助しています	入浴は身体の清潔保持と共に楽しいひと時であるように心配りをしながら支援に努めている。入浴は週2回を基本にしているが、毎日入浴を希望される場合には対応している。入浴拒否されるばあいには、それとなく浴室に案内して入浴してもらおうと「アアア 良かった」という声が出て職員も共に喜んで	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調や生活習慣を理解し、その方のタイミングを見ながら、安全確認も2時間毎に行い、異常の早期発見対応に努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬を確実、安全に服薬援助が行えるよう、体調不良時等は、医師、看護師、薬剤師と連携を取り、安心して服薬して頂いています。記録も確実に行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の豊かな生活を送って頂くためにも、今必要とされる役割や娯楽などを、個性をもって、検討し乍ら支援しています		

京都府 グループホーム さざなみ京都南 (2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方のその時の希望に沿って、戸外へ外出出来るよう支援しています。スタッフと同伴等の機会を作り、買い物等も含めて、外へお連れしています	日常的に頻繁に外出することは出来ていないが、希望に応じて買い物を兼ねて外出・外食の機会を設けている。近くに公園があり散歩することもある。花見など季節のお出かけも楽しみな行事になっており、地域の学校での「七夕まつり」や「夏まつり」・近隣の園児達との芋ほりもうれしい外出の機会になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心して頂けるよう、お金の管理をして貰えているという安心を提供し、又認識して貰えるよう、希望時には、コンビニやスーパーでお財布を持ち、買い物をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人のご都合や思いを理解し、ご本人の希望があれば、時間帯に配慮し乍ら、連絡が取れるようにしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベント時の皆さんの笑顔の写真を掲示したり、京都の景色の写真や、季節に合った物等を共用の空間に飾り、楽しい空間作り努めています	共用空間は全体に生活感があり落ち着いた雰囲気がある。各フロアの出入り口には、入居者の笑顔あふれる顔写真が並べられており、訪れる人の気持ちを和らげているようである。リビングは南側に大きく窓がとられ明るくゆったりとした空間になっている。窓から空を眺めて「夏の雲やな」と季節を感じている入居者があった。リビングに続く厨房から食器のふれあう音が生活感を感じさせている。不快な臭いや音・光はなく、それぞれ思い思いの場所で職員や入居者同士でおしゃべりに興じている姿がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座席を自由に行き来出来たりする事で、日中フロアで皆と楽しく雑談されたり、居室で静かに過ごしたりできる居場所作り努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日ごろからスタッフと雑談したり、家族様とも雑談したりで、今までの生活で使用されたものを置いたり等、ご本人の気にいった居室作りに努めています	明るく落ち着いた雰囲気の部屋にそれぞれの好みの家具を配置している。テレビを置いたり、写真など飾って、その人らしさが伺えるような部屋作りになっている。全体に簡素で清潔感を感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクのある環境にいち早く気付く事ができ、安全な環境作りに努めています。又ADLアップに繋げる自立に向けた生活を目標と出来るような取り組みをしています		